



ライフドアすわ

地域ケア会議通信

発行：諏訪市地域医療・介護連携推進センター ライフドアすわ

〒392-0027 諏訪市湖岸通り5-12-5 Tel:0266-78-0477

e-mail: info@lifedoor-suwa.jp



「多職種協働セミナー」を開催しました

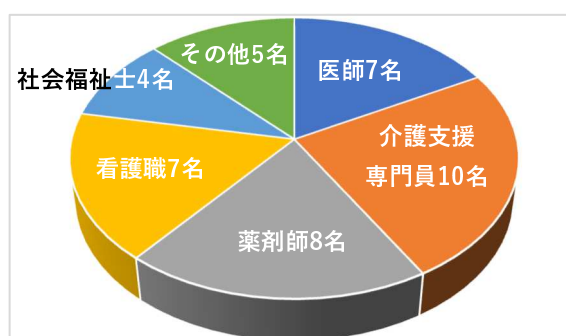
高島城では例年より一足早い桜の開花宣言が出され、年度末押し詰まる3月29日（水）午後7時より、諏訪市総合福祉センター交流ひろばにおいて「令和4年度多職種協働セミナー」が開催されました。

ライフドアすわでは、有識者による「諏訪市 ACP 検討会」を設置し、間近に迫る「2025年問題」の対応として、人生会議（ACP＝アドバンスケア・プランニング）の実践に必要な「リビングウイル（最後まで自分らしく生きるための希望表明書）」の検討を重ねています。

そこで、第1部は検討会のリーダーで松本医院の松本宙明院長によるミニレクチャー、第2部は実際に参加者にリビングウイル（試行版）を記入していただき、感想やリビングウイルを広めていく方法についてグループワークを行いました。

新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶりの対面形式でのグループワークでしたが、医師、看護師、薬剤師、ケアマネジャーなどの専門職をはじめ一般の方を含む41名の皆さんにご参加いただき、自分や大切な人のリビングウイルについて、熱く話し合いが行われました。

[参加者の内訳：41名]



リビングウイル 《最後まで自分らしく生きるための希望表明書》

あらかじめ意思表示をしておくことで、自分の望む延命治療を、家族や周囲の人に知ってもらうことができます。記入する時には、ご家族や親しい人とよく話し合って、かかりつけ医とも書面の内容を共有しておきましょう。この書面の内容は、最大限尊重され、もしもの時の参考になります。

本人の署名

作成日

年 月 日 (何度でも書き直しができます)

1 基本的な希望

(1) 最期を過ごしたい場所

自宅 病院 入居施設 その他 ()

(2) その他の希望 (医療以外の生活やケアに関する希望等なんでもをご記入ください)

例：友達と笑って話したい。 野菜や花を育てていきたい。 ペットの世話をして暮らしたい。

2 治療をしても回復が見込めない状態になった時の「延命治療」について

(1) 心臓マッサージなどの心肺蘇生法 希望する 希望しない

(2) 延命のための人工呼吸器 希望する 希望しない

(3) 鼻チューブ・胃ろうによる栄養補給 希望する 希望しない

↓
【鼻チューブ・胃ろう】のどちらかに○

(4) 点滴による水分補給 希望する 希望しない

(5) 痛みや苦痛について

副作用があっても、痛みなどはできるだけ抑えて欲しい

ある程度痛みがあってもいい、できるだけ自然な状態で過ごしたい

3 代理判断者の署名欄 (ご自身で医療上の判断ができなくなった時、医師が相談すべき人です)

よく話し合ったうえで、署名してもらいましょう。

①氏名 続柄 緊急時 TEL

②氏名 続柄 緊急時 TEL

4 かかりつけ医にこの書類を見てもらいましょう

かかりつけ医療機関名

※先生にお願い：患者さんが持参されたら、コピーを取ってカルテに保管をお願いします。

諏訪市医師会 諏訪市 諏訪市地域医療・介護連携推進センター (ライフドアすわ) 人生会議 (ACP) ワーキンググループ

グループワークで出された意見

「リビングウイル」を記入しての感想・意見

<p>■延命の処置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院では家族に相談できず、1人で（自分で）決めなくてはいけない時がある ・ なかなか自分（人）の最期をイメージしにくい
<p>■最期を過ごす場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢や病気の種類、その時の心身の状態によって変わってくる ・ 家族の負担を考えると自宅は選びにくい ⇔ 一人ぼっちはさみしい ・ 家族関係、家族の年齢によって違う、変わる。 ・ 場所 + 誰と一緒にいたい ・ 施設で最期を迎える場合も、できるだけ家族とのかかわりを持ってもらいたい
<p>■リビングウイル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意思が伝えられるうちに自分で決めたい ・ 家族やクライアントに（話し合いを促す）声かけのタイミングが難しい ・ 家族をできるだけ集めて話し合いたい（お盆や正月など家族が集まる機会も） ・ 定期的にアップデートが必要。何回でも書き換えていいよ！ ・ 大きな病気をした時が話し合うチャンス ・ 延命治療について「希望する」「希望しない」の2択は難しい ・ 本人の想いと家族や支援者の行動が一致しないことがある = 家族と一緒に作る ・ 「リビングウイル」や「ACP」はピンとこないが「終活」には関心が高まっている ・ 子どもや若いうちから考える機会を設ける ・ 災害の備えなどの家族会議で話し合う ・ 急変時に救急車を呼んだ場合、リビングウイル（意思）との整合をどうするか
<p>■記入用紙について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ この位のボリュームなら気軽に話し合いができそう ・ もう少し内容があってもいいような。「誰に会いたい」とか ・ 希望の記入欄は例示があってよい ⇔ 例示に誘導される可能性も ・ 裏面にある延命治療の説明は、表面にあった方がいい ・ 専門用語は×。一般の人がイメージしやすい説明を ・ 「希望」を記入する項目が少ない ・ 死の質問から入るのは×。自分らしく生きるための質問を！

「リビングウイル」の周知など

<p>■リビングウイルを配布する場所（人）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所や公共施設、広報すわの挟み込み ・ 薬局・・・薬の管理などの話題の中で ・ ケアマネジャーが訪問時に ・ サロンや民生委員を通じ ・ 病院（かかりつけ医、退院時など） ・ 駅や銀行、スーパーなど
<p>■周知・PR方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ マイナスイメージではなく「自分らしく生きるためのもの」として ・ 介護保険の申請時や65歳になったら（75歳になったら）全員に配布する ・ 認知症の研修やイベントなどで ・ ライフドアすわの出前講座など研修を行う ・ キャッチーな言葉「一度は開こう家族会議！一度は書こうリビングウイル！」など ・ 啓発サポーターの養成



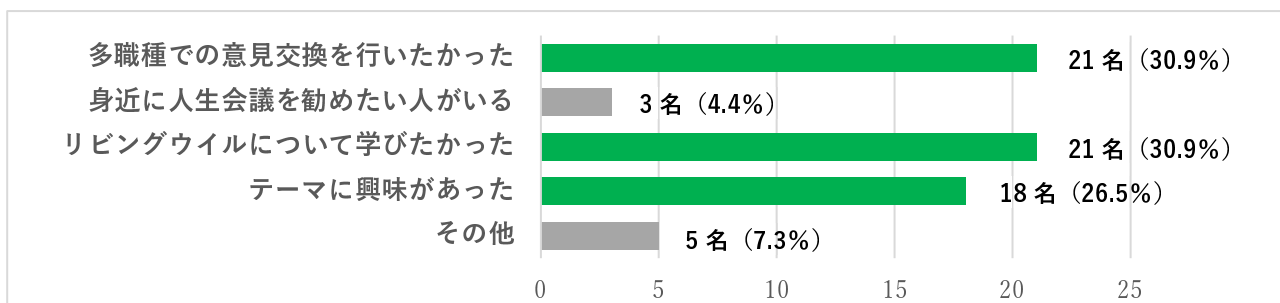
アンケートから

有効回答：34名

「人生会議」「リビングウイル」を広めていく際に課題だと思うこと

- ・実際に必要な人に関わる多職種が具体的に啓発・支援できる＝専門職もより深く多くの理解が必要
- ・家族関係のあり方
- ・一人暮らしの方、近くに家族がいない方、すでに認知症が始まっている方は難しい
- ・「諏訪市版リビングウイル」が必要
- ・重い内容になりがちなので、小さい頃から学校などで話す・聞く機会があるとよい
- ・その時の状態によって考えは変わるので、一度で決めない、書き直せることを伝えていくことが重要
- ・本人や家族への周知。諏訪では当たり前となるような取り組みが必要
- ・暗く悪いイメージをなくし、もう少し気楽で明るく前向きに会議を開きやすい環境を作る
- ・よりよい人生を歩むために必要であること、自分の人生に責任を持つために必要であることの理解
- ・死を語ることについてのタブー視、どのように生きてどのように人生を閉じるかを意識する
- ・体調が悪い時にはあまりにリアル。元気なうちに書き始めるといいと思う
- ・最期を決めることだけが目的ではなく、周りの人と話し合うことの大切さを伝えたい
- ・実際に活用した事例など「やっておいてよかった」と思えるPRができるといい
- ・「延命治療」の実感がわからない。知識がない。

参加の動機



参加しての意見・感想

- ・医師を含め色々な職種・立場の方といろいろな角度から意見交換ができて刺激になった（多数意見）
- ・難しいテーマだが、市民を巻き込んでの話し合いが必要
- ・「死」に対する考え方はそれぞれあって、どれもその人らしく生き抜くための選択だと感じた
- ・（ACPについて）今まで知らなかったが、広まっていくことに期待したい
- ・持ち帰って職場や家庭で話し合ってみたい
- ・自分自身のあり方、生き方を見つめるいい機会になった

